

## 私だけ？ みんなどうしてる？

## 進路指導部 近澤先生に聞いてみました

続くコロナ禍で学校に来る機会も少なく、心配や不安を感じる保護者も少なくないようです。実は家庭内で学校のことを話さないという困りごとは案外多いんです。進路に関する疑問について近澤先生にインタビューしました。



進路マップ(※1) 進路ブログ(※2)

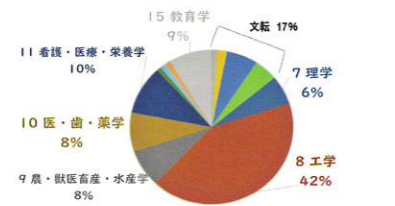
## Q1：千里高校の先生には、千里高校のOBが何人くらいいますか？

英語科、数学科、地歴・公民科、理科に各1名、国語科に2名、合計6名です。

## Q2：卒業生が進学した大学の学部で多かったものTOP5

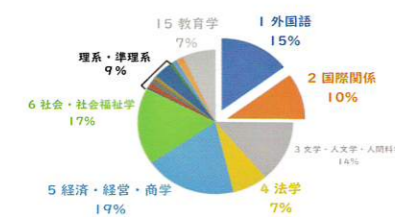
## 総合科学科

1. 工学
2. 看護・医療・栄養学
3. 医・歯・薬学
4. 農・獣医畜産・水産学
5. 理学



## 国際文化科

1. 文
2. 経営
3. 社会
4. 法
5. 看護



## Q3：子どもたちが進路決定するまでに学校はどんなことをサポートしているのか具体的に教えてください。

千里高校のホームページに「進路マップ※1」という形で、どういう流れで進路指導を行っているのか、そして、子どもたちはどんな流れで自分たちの進む道を可視化していくのかを一覧にしています。ぜひ一度ご覧いただければと思います。

進路指導は「子どもたちが胸を張って人生の次のステージに進むためのバックアップ」だと私たちは考えています。前に立って「こっちに来い」と引っ張るのではなく、後ろに立ってプッシュしていく。それが結果、進路指導につながると思っています。

我々は、常に「まず一番広い選択肢を持ちなさい」と言っています。私はよく「サーチライト」という言い方をしますが、生徒が自身の将来を「サーチライト」で照らすときに、一番広い範囲を照らせる選択肢を選んでほしいと考えています。早いうちから選択肢を狭めることはしない方がいいと思います。とはいえ、最終的に選択がだんだん狭まっていくというか、先鋭化していくことで実際の方向が決まっていくことになりませぬ。

とにかく、選択肢を広く持ってほしいなということ、そしてやっぱり自分で自分の限界に蓋をしてほしくないということです。

大学受験で私学と国公立となった時、まずはサーチライトを一番広い範囲で当ててほしいと考えています。「私は5教科7科目無理だから、3教科でいきます」と最初からいう生徒たちには「なんで3教科がいいの？」「なんで〇〇大学がいいの？」と聞きます。そこで、胸を張ってこういう理由でこの進路希望ですとなったら、「じゃあがんばれ」と必ず言うてはまずです。ただ、「5教科7科目はしんどいから」とか「私には無理だから」だとかそういう言い方をすると、ちょっとそこは踏ん張ってみよう伝えていきます。

今お話ししたような流れで、1・2年生の生徒たちに5教科7科目に取り組もうということを言っているところはあります。ただそれは、100%

うじゃないと許さないということは全くありません。私は生徒たちに、胸を張って「こういう理由なんだよ」ということと向き合ってほしいですね。自分にも向き合ってほしいし、保護者や教員にも向き合って伝えてほしい。それが千里高校進路指導部が生徒たちに向けているスタンスと考えていただいて結構です。

一般企業に就職や公務員を志望する生徒に対しても同様です。その生徒が胸を張って具体的な理由を伝えてくれたら、絶対に背中を押して具体的な進路指導に移ります。ただ、そこでの返答が曖昧だったら、「本当にそれでいいのか？」とさらに確認をします。その確認に対し、きちんと自分と向き合って、自分の意思を伝えてくれたならば、その意思を尊重した指導を行っています。

## Q4：理転、文転や教科選択について。

文転はカリキュラム的には問題はありませぬ。地歴・公民2科目にも対応した選択が可能です。ただし、理転はカリキュラム的に難しいところがあります。数Ⅲや理系に対応した理科2科目をカリキュラム的に選択することが出来ませぬ。カリキュラムを改変する議論も校内で行ったこともあります。ただ現状では、理転はカリキュラム的に厳しいと言わざるを得ない状況です。

## Q4-1：数Ⅲの授業をカバーするのは各自でになりますか？

数Ⅲは、放課後の講習だけで対応できる内容ではありません。もちろん、教科担当は質問に対応することは可能です。

## Q4-2：結局本人が進む進路によって科目を選ばないといけなそうですね。

1年生も2年生も次年度の選択に向けて、まず夏休み前に1回目の仮選択を行ってもらいます。その際に学年集会で科目選択の説明を行います。例えば、私が担当する地歴・公民科は選択科目が多いので、大阪大学外国語学部を考えてる人は世界史じゃなきゃ駄目だよとか、地理を取ったら私学の同志社大学を受けられないとか、そんな説明をします。

その後、10月の三者面談の時期を目途に本登録を行ってもらいます。その間に大学研究を行って、自分に必要な受験科目を調べてもらっています。

## Q5：1校の受験にAO1期、2期だったり、推薦、一般のように受験方法は何通りあるかということなど、大学入試の複雑な受験方法について。

受験方法は学校によって違うので、まずは、ご自身で調べていただきたいですね。もちろん、質問があれば生徒たちは、進路指導室を訪ねてもらってもかまいません。3年生はもちろん1・2年生もよく質問にやっけてきます。

3年生には、6月に進路ホームルームで情報冊子（外部の予備校のものですがよくできているので）を配布しています。

2年生には入試制度についての説明ができる同様の冊子を取り寄せて1月の進路ホームルームで配布しています。

## Q5-1：学校でのことを子どもが話さないで困っています。

こちらが配付する資料が、驚くほど生徒から保護者の皆様まで届いていないということは、担任をした際に私も実感しました。先日、進路指導部では「進路ブログ※2」を立ち上げて情報発信を始めました。ぜひご覧になってください。

## Q6：受験で滑り止めも含めて落ちてしまった時の対応や、浪人する場合のフォローなど、対応について。

今年度は、オンライン学習システム「Google Classroom」を使用して、浪人生向け Classroom「まだまだ頑張る52期生」を開設しています。「奨学金の申込み」、「模試の予定」、「調査書発行」、「共通テストのリサーチ」といった情報を発信しています。卒業生はそれを見て、連絡をしてくれています。

今53期生の皆さんが使っているアドレス「@e.osakamanabi.jp」は卒業後1年は保管されると聞いていますので、今年度も新たに Classroom を作って、希望者は入るよう発信していこうと考えています。「卒業したからあとは知らない」ということは全くありません。進路指導室はかなり頻りに卒業生が来てくれる場所です。相談があるということで、保護者の方が一緒に来校されることもよくあります。仰っていただかないと我々が掴めないケースもありますので、そこは信頼して情報を伝えていただければと思います。

子どもが学校のことをほとんど話さないで、先生からお話が聞けて本当に良かったです。進路の情報を分かりやすくサイトにもまとめてくださっていますし、生徒からの個別の相談にもしっかり応えていただけてることがよく分かりました。近澤先生、どうもありがとうございます。（広報委員）

## Q7：大学の奨学金の種類や内容について。

代表的なのが「JASSO、日本学生支援機構」の奨学金で、ここ数年でかなり改善されました。以前は有利子・無利子の貸与型だけだったのが、給付型もできて、採用数も増加しています。3年生の5～6月に学年担当の方からアナウンスをしています。奨学金は大きく2種類あり、千里高校では予約奨学金（進学後に使うもの）は進路指導部が、在学中の奨学金（大阪府育英会など）は生徒指導部が担当しています。

奨学金にはその他、民間の育英団体や企業、個人が実施する「民間育英団体の奨学金」、各地方自治体や大学が窓口となる「地方自治体の奨学金」、私立大学を中心に授業料の減額や免除など独自の奨学金を設ける「大学独自の奨学金」、などがあります。

その他には教育ローンがあります。奨学金との大きな違いは、奨学金の場合「教育を受ける子ども本人」が借りるものですが、教育ローンでは「教育を受けさせる親」が借りるものです。国の教育ローンでは「日本政策金融公庫」がありますが、こちらも所得制限があります。民間の教育ローンは金融機関ごとに異なる金利が設定されていて、国の教育ローンより金利が高いものがほとんどですが、所得制限がないので奨学金や国の教育ローンでは年収制限で借入ができなかった方が利用できる貸付になります。